

シンポジウム

「地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割」

The 28th Tohoku Occupational Therapy Congress in Akita

福島県南相馬市の復興への現状と地域包括ケアシステムの取り組み



伊賀 裕貴子

南相馬市健康福祉部長寿福祉課
地域包括ケアシステム推進係

福島県の太平洋側に位置する南相馬市は、平成23年3月11日の震災時、「震度6弱」の大地震を経験した。加えて福島第1原子力発電所事故の影響で、避難を余儀なくされたため、一時期は医療機関や福祉施設も閉鎖したこともあった。その後、徐々に再開し始めてはいるが、医療・介護職員不足のためにフル稼働できていないなど、職員不足は深刻な状況にある。作業療法士に関しては、市外等から南相馬市内の事業所に入職して頂け、新たな分野で働いている方もいる。

震災前に約7万人だった人口は、約6万2千人に減少、高齢化率は25.9%から33%に上昇。介護認定者数は、震災前と比べて686人が増加している状況にあり、震災の影響で5～10年早く人口問題や高齢者問題が起きている。

震災後、主に高齢者についての課題で挙げられるキーワードには「地域での見守り・助け合い」が多い。平成27年度から「南相馬市地域包括ケアシステム推進会議」を開催しているが、専門部会でも話題となる。委員にはリハ職も参加し、各分野からの活発な意見交換をしていただいているが、まだまだ、地域の中での対象者の生活を考えられるリハビリ専門職は少ないように感じている。

住み慣れた地域の中で、健康に生活できる高齢者に専門職のどんな役割が持てるのか、考える機会としたい。

略歴●伊賀 裕貴子（いが ゆきこ）

- | | |
|-------|---|
| 1996年 | 東北医療福祉専門学校 卒業 |
| 1996年 | 作業療法士資格 取得 |
| 同年 | 旧原町市役所（現南相馬市役所）保健センター 入職
老人保健法に基づく機能訓練事業、高齢者保健事業に関わる |
| 2014年 | 南相馬市役所 長寿福祉課に異動
介護予防事業に関わる
現在に至る |